

# 特別支援教育における養護教諭の役割に関する研究(1)

—養護教諭の勤務学校の概要と児童・生徒との関係について—

○林 幸範 石橋 裕子 小杉 幹子 林 廣徳

(こども教育宝仙大学) (帝京科学大学) (NPO人間科学研究所) (白梅学園大学大学院こども研究科)

## 1. はじめに

平成19年の実施以降、特別支援教育における養護教諭の重要性がとわれているが、特別支援教育の推進のための養護教諭の役割、校内委員会の活性化に向けた養護教諭のかかわり方等、特別支援教育を養護教諭の立場で実施された研究はほとんどなく、「特別支援教育と保健室の連携」等についての研究論文も極めて少ない。そこで、平成22年10月に、特別支援教育における養護教諭の役割や意識などを東京都足立区の公立の小・中・高・特別支援学校の養護教諭を対象に調査を実施した。その結果、養護教諭は、①小・中学校では家庭での問題を抱えている児童・生徒やストレスがたまっている児童・生徒が多いこと、②特別支援教育対象児は文部科学省の調査出現率よりも低く、実施している特別支援教育も文部科学省の調査よりも低いこと、③特別支援教育コーディネーターに半分以上が任命され、校内委員でもある者が半数近くいること等が明らかとなった。この足立区の養護教諭の調査は一地域の調査であるので、全国での養護教諭の特別支援教育における役割や校内での位置づけ等を明確にするため全国調査を実施した。

## 2. 方法

**(1)調査時期**…平成23年12月。 **(2)調査対象**…全国の国公立の学校1,408校で実施。 **(3)調査方法**…質問紙法・郵送留置法で実施。 **(4)調査項目**…①基本的属性、②勤務校などでの児童生徒に関する項目、③特別支援教育の実態と意識に関する項目、④特別支援教育関連の職種に関する項目、⑤こども観に関する項目、⑥ストレスに関する項目など。 **(5)分析・凡例**…①回答があった477名のうち、小・中・高等学校・中等教育学校の(一般学校)と[特別支援学校]別で分析。②回答数が異なる場合は(n=)と表示。③囲い込みの数字50.0%以上、反転数字90.0%以上。

## 3. 結果

**(1)基本的属性**…①**学校種類[回収率]**：『小学校』141名(29.6%) [21.1%]・『中学校』119名(24.9%) [24.9%]・『高等学校』73名(15.3%) [31.7%]、『中等教育学校』7名(1.5%) [21.9%]の『(一般学校)』340名(71.3%) [24.1%]、『[特別支援学校]』137名(28.7%) [56.6%]、『全体』477名[28.9%]。②**勤務地**：(一般学校)『関東地方』21.2%・『九州・沖縄地方』17.4%・『北海道・東北地方』『中部地方』各16.8%・『中国・四国地方』15.6%・『近畿地方』12.4%の順。[特別支援学校]『中部地方』27.7%・『関東地方』19.0%・『近畿地方』16.8%・『北海道・東北地方』14.6%・『九州・沖縄地方』11.7%・『中国・四国地方』10.2%の順。回答がなかったのは『山形県』『広島県』『佐賀県』『熊本県』『大分県』の5県。③**勤務校の規模—在校生数**：(一般学校)『600～699人』15.6%・『1,000人以上』14.7%・『400～499人』11.8%の順(平均675.1人、最小124人～最大2,205人)。1学級あたりの平均在校生数は、『30～35人未満』40.6%・『35～40人未満』37.4%・『20～30人未満』8.5%の順(平均34.3人、最小13.8人～最大44.6人)。[特別支援学校]『200～299人』38.0%・『100～199人』21.2%・『300～399人』20.4%の順(平均213.8人、最小42人～最大449人)。1学級あたりの平均在校生数は、『5～10人未満』59.1%・『5人未満』35.0%・『10～20人未満』(0.7%)の順(平均5.7人、最小2.5人～最大11.1人)。④**特別支援学級の設置((一般学校)のみ)**：『していない』42.4%、『している』57.4%。⑤**性別**：(一般学校)『女性』100.0%。[特別支援学校]：『女性』99.3%・『男性』0.7%。⑥**年齢**：(一般学校)『20代』14.4%・『30代』15.3%・『40代』32.6%・『50代』33.8%・『60代』1.5%の順(平均43.7歳、最小21歳～最大60歳)。[特別支援学校]：『20代』22.6%、『30代』27.7%、『40代』27.0%、『50代』19.7%の順(平均38.9歳、最小23歳～最大59歳)。⑦**経験年数**：(一般学校)『30年以上』26.8%・『25～30年未満』16.5%・『20～25年未満』14.4%の順(平均20.4年、最小1年未満～最大40年)。[特別支援学校]『15～20年未満』16.1%・『4～7年未満』15.3%・『7～10年未満』13.1%の順(平均14.4年、最小1年未満～最大40年)。⑧**複数配置**：(一般学校)『ない』64.1%・『ある』34.1%。[特別支援学校]『ない』16.8%・『ある』81.8%。⑨**勤務校で最近多い児童生徒([特別支援学校]は一般学校について)**…①**LD(学習障害)の傾向がある児童生徒**：(一般学校)『いる』15.0%、『少しいる』55.6%、『いない』22.4%。[特別支援学校]『いる』33.6%、『少しいる』39.4%、『いない』10.9%。②**高機能自閉症の傾向がある児童生徒**：(一般学校)『いる』10.3%、『少しいる』58.5%、『いない』26.5%。[特別支援学校]『いる』34.3%、『少しいる』40.1%、『いない』13.1%。③**上記以外の自閉的傾向のある児童生徒**：(一般学校)『いる』5.9%、『少しいる』47.9%、『いない』35.9%。[特別支援学校]『いる』64.2%、『少しいる』24.1%、『いない』1.5%。④**アスペルガー症候群の傾向がある児童生徒**：(一般学校)『いる』11.2%、『少しいる』63.2%、『いない』21.2%。[特別支援学校]『いる』29.9%、『少しいる』43.8%、『いない』11.7%。⑤**AD/HD(注意欠損/多動症)の傾向がある児童生徒**：(一般学校)『いる』14.7%、『少しいる』59.1%、『いない』21.2%。[特別支援学校]『いる』46.0%、『少しいる』37.2%、『いない』5.8%。

## 4. 考察とまとめ

以上から、調査対象の学校は、一般学校と特別支援学校は3対1の割合で、ほぼ全国から回答があった。さらに、一般学校の養護教諭は、平均43.7歳で、平均勤務年数は20.4年であり、特別支援学校の養護教諭は、平均38.9歳、平均勤務年数は14.4年で、一般学校の方が年齢も勤務年数も長い。また、現在の学校には、一般学校の養護教諭の過半数は、軽度発達障害の傾向がある児童生徒が少しはいると思っており、特別支援学校の養護教諭は自閉的傾向がある児童生徒が多くいると思っている。